

子育てかわら版

所沢市立宮前小学校
令和4年度

No.04



「ちゃんと」の感覚にズレ…

令和4年4月19日(火)の埼玉新聞の「自立心を育むお手伝い」に次のような記事が掲載されていましたので、ご紹介します。

曖昧な言葉を使わず 明確に！

子供が散らかした部屋を見た親が「ちゃんと片付けなさい」と指示を出します。子供は自分なりに「ちゃんと」片付けます。ただ、その片付けも、別の場所に移動させるだけで終わっていたら、親は「何でちゃんとできないのか？」と子供を責めます。多くのご家庭でよくある光景かと思えます。

この「ちゃんと」という言葉を普段から何気なく使っています。特に子育てにおいては「ちゃんと食べなさい」「ちゃんとできた」と子供に声掛けすることが多くあります。国語辞典によると「ちゃんと」とは「完全できちんとしていいるさま」とあります。「完全」と「きちんと」に対する感覚は人によってかなり

自立心を育むお手伝い

異なります。このギャップが子供を混乱させてしまうことになります。

では、どうすればよいのでしょうか。まずは「ちゃんと」の定義を親子で擦り合わせることです。例えば、「タオルを畳む」というお手伝いの場合、単に棚にしまえる状態にするのではなく、端と端がぴったりと揃えられた状態にするということが具体的に伝えることが大切です。子供は「ちゃんと」やったつもりでいることも多いので、明確な指示を出せるように大人が努力することが重要です。子供たちの「お手伝いをしよう」というやる気を大切にしたいものです。

(令和四年四月十九日 埼玉新聞
「自立心を育むお手伝い」から)

この記事を読んでとても心に残りましたので紹介させていただきました。私たち大人はつつい分かってくれるだろうとの思い込みで、子供に指示を出していることが多くあります。子供の心に寄り添って、明確な言葉で伝えたいものですね。

